

カンボジアの農村生活伝える写真展 子供たちの笑顔に触れて

あすから
小倉北区 NGO代表・白川さん撮影

カンボジアの農村の生活を写真などで描く「子どもたちの笑顔展」カンボジアの農村からの報告」が31日から小倉北区巨過市場内の大學堂で始まる。主催する国際協力NGO代表の白川麗子さんは「子供たちの屈託のない笑顔を見てほしい」と呼び掛けている。

白川さんは2010年10月に特定非営利活動法人AICAを設立、代表に就任してカンボジアでの農業技術の支援と教育の普及に努めている。事務所は東京都品川区と八幡東

「子どもたちの笑顔展」の準備をする白川さん



区にある。

フノンペンから北西に車で3時間のコンポンスプー州の34村、約340世帯の貧困に苦しむ農家で農業技術を指導している。AICAの農業専門家のスタッフが苗の植え付け、野菜作り、鶏の飼育、有機肥料作りなどのノウハウを各地の普及員に伝えている。

一方、フノンペンから南に車で1時間のカンダール州では日本人に農村生活の体験をしてもらっている。日本語ができる男性が運営する塾で現地の子供たちと一緒に授業を聞いたり、農村にホームステイする。参加者が英

語、日本語を教えるボランティアもある。次回は9月1〜7日の実施で参加者を募集中だ。

写真展は白川さんが撮影したカンボジアの子供たちの表情や学校、農村の暮らしなど約60点を大學堂に展示する。8月13日まで。

7月31日午後6時から白川さんによるカンボジアの農村の話やスライド上映もある。「物がなくても貧しくても人懐っこく、楽しく生きる子供たちの笑顔を見に来てください」と話している。連絡は白川さん080・3469・3614。

【松田幸三】

2013年7月30日 毎日新聞